令和７年度三重県医療審議会健やか親子推進部会で出された主な意見

○「健やか親子いきいきプランみえ（第３次）」の進捗状況について

・途切れない支援という観点から、５歳児健診においても１歳半・３歳児健診と同様に医師の関与が必要であり、その趣旨を各市町に理解してもらう必要があるのではないか。

・ネット等の情報に左右され不安になる保護者もいるため、支援を必要とする人に、分かりやすく確実に情報が届く仕組みを構築してほしい。本当に困っている人に適切な支援が届いているか不安な面もある。

・「何かあったら相談してね」という大人の発想は子どもには通用しないため、普段からの関係性づくりが重要である。「助けて」と相談するには力が必要であり、子どもがアクセスしやすいよう工夫が必要である。

・子どもの睡眠について、睡眠時間だけでなく「就寝時間」が睡眠の質に関わる重要な要素である。国の調査に項目がないとしても、県として独自にデータを把握し、県民への説明に活かすべきではないか。

・県が養成した発達障がい支援システムアドバイザーが、人事異動により全く関係のない業務に移っている現状がある。せっかく養成した人材が地域の資源として定着するよう、研修後、一定期間は関連業務に従事するなどの制約を検討できないか。

・「体罰等によらない子育てをしている親の割合」が７割という数値は、実感と乖離があり、潜在的にはもっと多いのではないか。マルトリートメントという広い視点で考えれば、相当高い割合になると思われる。

○令和８年度の母子保健関係の取組方向について

・「健やか親子」の実現には、「母子」だけでなく「父親」の視点も重要である。実際にお子さんを見守るのは保護者全体であり、今後の取り組みに父親支援の視点も加えてはどうか。